

第2章 弘前市の景観特性と課題

1. 市民アンケートと風景募集の結果から

平成22年(2010)2月に実施した「景観に関する市民アンケート」及び「私の好きな・大切にしたい弘前の風景募集」の結果の概要は次のとおりです。

【参考】景観に関する市民アンケート 調査概要

平成22年2月に、無作為抽出による市民2,000人を対象として、景観に対する市民の意識を把握し、それらを景観計画の策定に反映させることを目的にアンケートを行いました。

①調査概要

- 調査対象者：16歳以上の住民2,000名を住民基本台帳より無作為抽出
- 調査期間：平成22年2月15日～2月28日
- 調査方法：郵送によるアンケート形式

②調査結果

- 回収数：700票
- 回収率：35.0%

【参考】私の好きな・大切にしたい弘前の風景募集 結果概要

平成21年10～11月に、弘前の大切にしたい風景の場所、コメント、写真、スケッチや俳句、短歌などを募集したところ、市内外の方から257点の応募がありました。また、平成22年2月に、応募された風景の展示を市内各所で行いました。

①募集結果

- 総数：風景257点、応募者52名
- 風景表現：写真175点、絵12点、俳句15句、短歌4首、漢詩2篇、エッセイ8篇

②応募の多かったもの

- 岩木山のある風景 92点（応募総数の約36%）
岩木山との組み合わせで多かったもの…りんご園、水田、街並み、弘前公園など
- 弘前公園とその周辺 50点
- 五重塔のある風景 23点

○写真：私の好きな・大切にしたい弘前の風景展の様子
(左：弘前市役所、右：JR弘前駅自由通路)

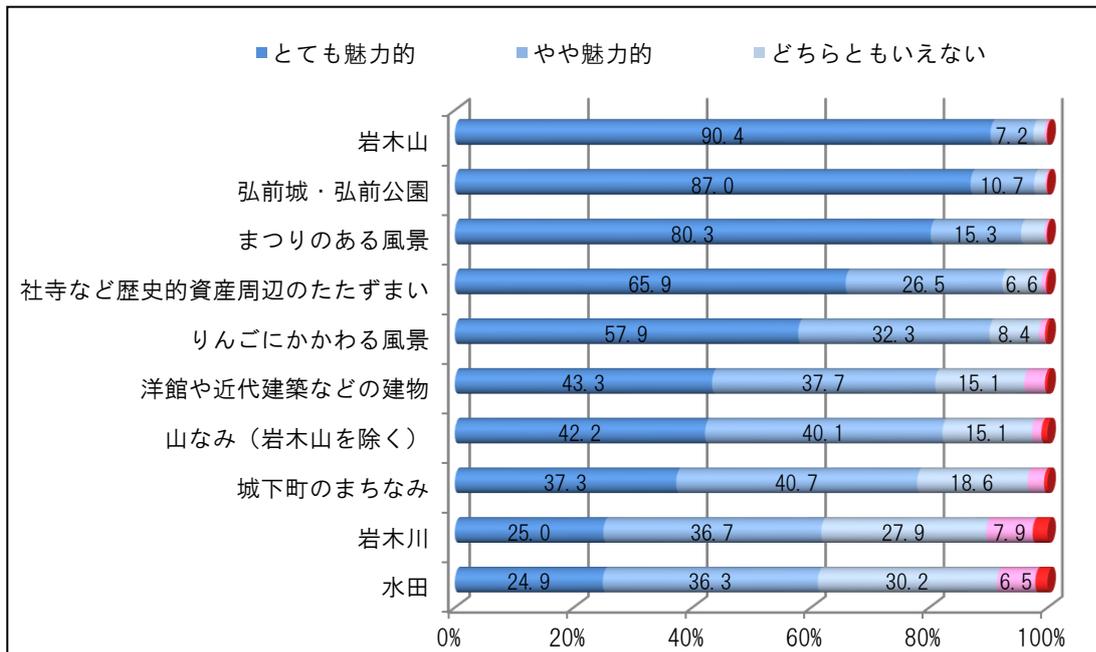


(1)市民が魅力的に感じる景観

弘前市の景観資源に対する印象について、最も魅力を感じるとされたのは「岩木山」で「とても魅力的」との回答が9割を超え、次いで「弘前城・弘前公園」、「まつりのある風景」、「社寺など歴史的資産周辺のたたずまい」、「りんごにかかわる風景」、「洋館や近代建築などの建物」の順となりました。

また、風景募集においても、「岩木山」に関する風景が最も多く寄せられています。

○図：弘前市の景観に対する印象（上位10項目）



(2)市内各地からの岩木山への眺望景観

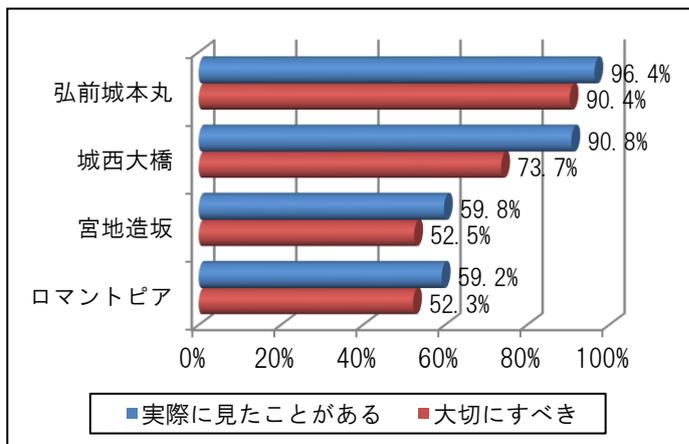
岩木山への代表的な視点場である「弘前城本丸」や「城西大橋」、「宮地造坂」、「ロマンピア」からの眺めについて尋ねたところ、「大切にすべき」との回答が最も多かったのが「弘前城本丸」からの眺めで9割を超え、次いで「城西大橋」からの眺めでした。

上記4か所のほかに、市民が薦める岩木山の眺めについて尋ねたところ、下図「おすすめの岩木山の眺め」のとおりとなりました。

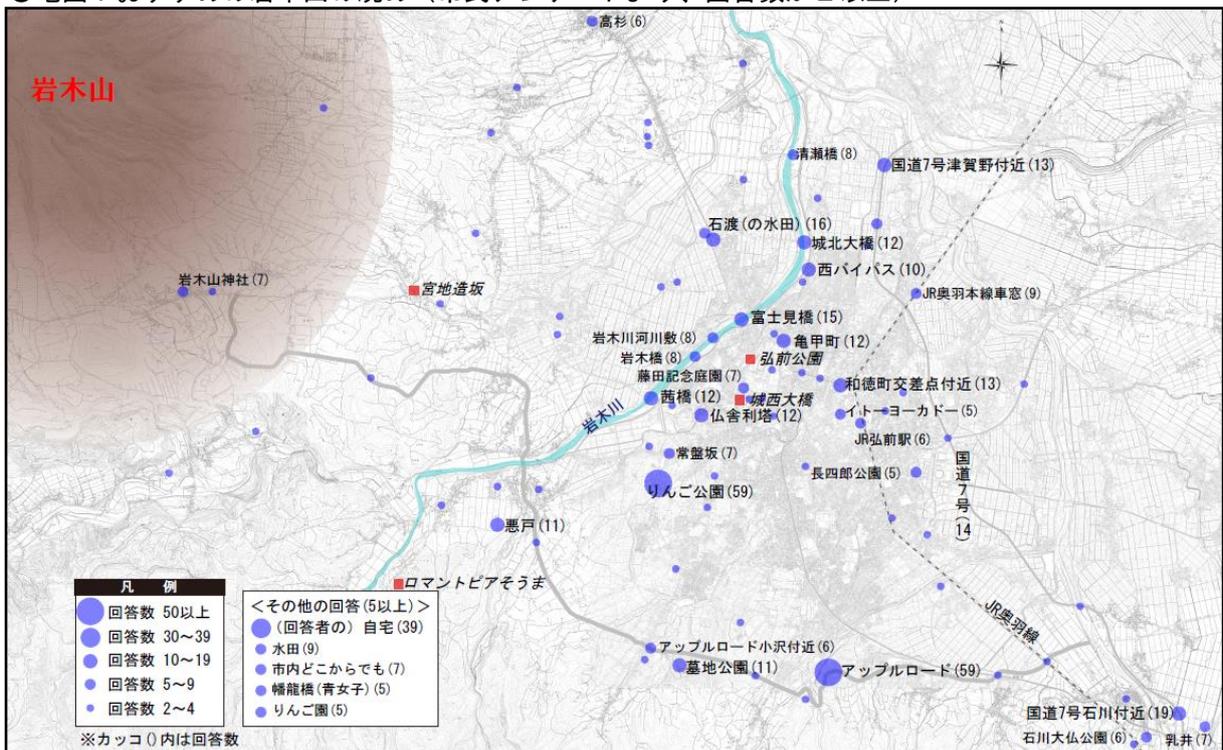
アップルロードや橋、水田、寺社、りんご園など、市内の至る所、様々な場所から眺める、おすすめの岩木山が寄せられています。

また、「自宅から」という回答も多く、市民にとって岩木山は身近な存在であることがわかります。

○図：大切にすべき岩木山の眺め（市民アンケートより）



○地図：おすすめの岩木山の眺め（市民アンケートより、回答数が2以上）



(3)弘前公園を中心とした城下町の景観

弘前市の景観について良いと思うところについて尋ねたところ、「弘前公園とその周辺」や「城下町らしい街並み」が回答の上位となり、また、大切にしたい弘前の風景についても、「弘前公園」や「弘前公園の桜」、「弘前公園周辺の街並み」などが上位となったことから、**弘前公園を中心とした城下町**について良い印象を持っている市民が多いことがうかがえます。

一方で、以前と比べて悪くなった点を聞いたところ、「城下町らしさ（街並み・建物など）が薄れた」という回答が多く、城下町らしい景観の保全や、活用施策が望まれていることがうかがえます。

○表：良いと思う景観（上位10項目）

良いところ（分類）	回答数
弘前公園とその周辺	66
城下町らしい街並み	58
歴史的建造物など	52
四季の風景・自然	38
近代的な街並み	31
岩木山などの山並み	26
異なる要素が調和した街並み	26
緑・花・公園	23
落ち着いた街並み	18
祭り	13

○表：悪くなったと思う景観（上位10項目）

悪くなったところ（分類）	回答数
街に活気がなくなった	111
城下町らしさが希薄になった	38
高層の建物が増えた	34
ゴミ・カラスなどの環境が悪化した	34
自然が減った	18
カラスが増えた	17
街並みに統一感がなくなった	14
景観を阻害する工作物や広告物が増えた	13
空き家・空き地が増えた	7
田園が減った	6

○地図：大切にしたい風景（市民アンケートより、回答数が2以上）



(4)異なる要素が調和した景観

弘前市の景観で良いと思うところを尋ねた設問（「表：良いと思う景観」参照）では、「異なる要素が調和した街並み」という回答がありました。「古いものと新しいものの調和」、「和風と洋風の調和」、「都会的なものと自然との調和」など、弘前市では、異なる要素が調和している景観を発見することができ、それを良いと感じていることがうかがえます。



石場旅館
と日本基督教団弘前教会教会堂



三上ビル（旧弘前無尽社屋）

(5)人の営みと一体となった景観

弘前市の景観資源に対する印象を尋ねたところ（「図：弘前市の景観に対する印象」参照）、魅力を感じる風景として「まつりのある風景」が上位になりました。

毎年多くの観光客が訪れるさくらまつりやねぷたまつり、春から夏にかけて市内各地の寺社で行われる宵宮、津軽三味線や津軽獅子舞などと、これらの祭りや伝統芸能の舞台となる弘前公園、寺社などの歴史的建造物や街並みが一体となり、城下町の趣を醸し出しています。

旧暦8月1日に行われるお山参詣での、岩木山神社へ至るまでの、黄金色の水田、色づき始めたりんご園、茅葺屋根の農村集落、百沢街道の松並木、背景となる岩木山などといった、道中の景観はなくてはならない存在です。

「城下町らしい街並み」には、津軽塗や津軽こぎん刺し、津軽打刃物、天然藍染など伝統工芸が生業として営まれる工房、そこでの創作が一層の風情を加えています。

このような人の営みと一体となっている景観も、弘前ならではの景観として着目していきます。



岩木山とお山参詣の行列



岩木山とひとやすみ

2. 景観の種類

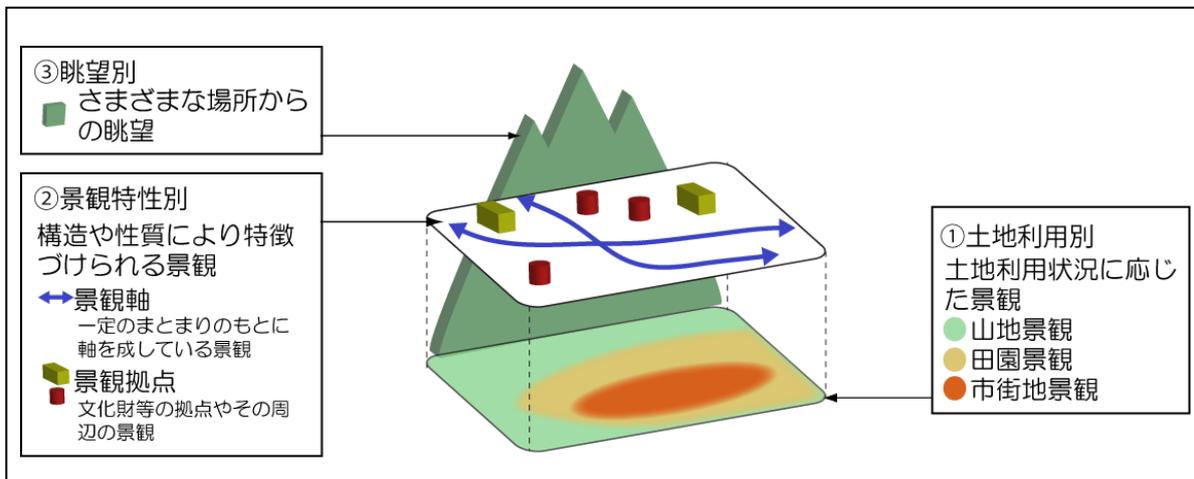
(1)分類の考え方

弘前市の景観には様々な種類があり、それらが調和して深みのある景観的魅力を醸し出しています。

景観類型は、①土地利用別（山地、田園、市街地）、②景観特性格（軸、拠点）、③眺望別の3つに大きく分類できます。

さらに、景観特性格の景観軸では河川や道路、鉄道などに、景観拠点では歴史・文化、公園・緑地、小路・坂道、公共・公益施設などに、眺望別ではそれぞれの眺めごとに、性格や役割に応じて細かく分類します。

○図：景観類型の概念図



(2)類型別の景観資源

① 土地利用別

弘前市の景観は、それぞれの土地利用状況に応じて山地景観、田園景観、市街地景観の3つに分類します。山地景観は、岩木山や岩木山周辺を始めとする森林や自然公園などから、田園景観は、りんご園や水田などの田園や集落から、市街地景観は、住宅地、商業地および工業地から構成されており、それぞれの位置や地形による景観の違いが地域の個性となっています。

土地利用		主な景観資源
山地	森林地域、自然公園地域、自然保全区域	山林、山間集落
田園	市街化調整区域、農業地域	水田、畑、農村集落
市街地	市街化区域	住宅地、商業地、工業地

②景観特性別

軸的な景観は、河川景観、道路景観、鉄道景観に分類します。また、拠点・核を形成している景観は、寺社や文化財、洋風建築、伝統工芸などの歴史・文化景観、公園や寺社林などの公園・緑地景観、小路や坂などの小路・坂道景観、市役所庁舎などの公共・公益景観に、それぞれの性質に応じて分類します。

特性	景観要素	主な景観資源(景観特性別)
景観軸	河川	岩木川、土淵川、寺沢川、平川、土淵堰、相馬ダム
	道路	アップルロード、国道7号(桜並木)、北大通り(ラベンダー通り)、オオヤマザクラネックレスロード、百沢街道(松並木)、小沢の蔵通り
	鉄道	JR奥羽本線、弘南鉄道弘南線、弘南鉄道大鰐線
景観拠点	歴史・文化	<p>【史跡、文化財等】仲町伝統的建造物群保存地区、禅林街、新寺町寺院街、弘前公園、石場家住宅、堀越城跡</p> <p>【神社仏閣】長勝寺、最勝院五重塔、弘前八幡宮、岩木山神社、高照神社、仏舎利塔、熊野奥照神社、誓願寺山門</p> <p>【洋風建築】旧弘前市立図書館、旧東奥義塾外人教師館、日本聖公会弘前昇天教会教会堂、日本基督教団弘前教会教会堂、旧第五十九銀行本店本館、カトリック弘前教会</p> <p>【近代建築】前川建築、弘前れんが倉庫美術館</p> <p>【旧軍施設】旧野砲兵第八連隊厩舎(豊原一丁目、現プナコ製造工場)、旧野砲兵第八連隊覆馬場(北園一丁目、現病院)</p> <p>【趣のある建物】田中屋、旧一戸時計店、三上ビル(旧弘前無尽社屋)、旧紺屋町屯所、加藤味噌醤油醸造元、石場旅館、小堀旅館、よしや質店、黒沼質店、弘前銘醸煉瓦倉庫、大阪屋、開雲堂、名曲&珈琲ひまわり、高砂そば、旧町田家住宅、平野、鎌田屋商店、翠明荘、津軽藩ねぶた村、川崎染工場、松緑酒造、酒舗成豊、木村家住宅、下山家住宅、竹田家住宅、田澤刃物製作所、保村打刃物製作所、つぼた文庫、高木静一商店</p> <p>【まつり・伝統行事】さくらまつり、ねぶたまつり、菊と紅葉まつり、雪燈籠まつり、エレクトリカルファンタジー、宵宮、お山参詣、沢田ろうそくまつり</p> <p>【その他】富田の清水、北辰堂(長坂町)、嶽温泉街</p>
	公園・緑地	<p>【公園・庭園】弘前公園、藤田記念庭園、土淵川吉野町緑地、りんご公園、桜林公園、中野2丁目児童公園の桜、長四郎公園の桜、瑞楽園</p> <p>【樹木】巖鬼山神社の杉の古木、諏訪神社のイチヨウの木、堂ヶ平の燈明杉、天満宮のシダレザクラ</p>
	公共・公益	弘前市庁舎、市民会館、博物館、学校、病院、公民館、駅
	小路・坂道	かくみ小路、弘前れんが倉庫美術館脇の路地、加藤坂、新町坂、新坂、辻坂、常源寺坂、土淵川自転車道

③眺望別

岩木山や五重塔を始め、周辺の山並み、高台からの市街地の眺望もまた、自然や田園と市街地が近接している弘前ならではの景観です。

眺望	主な景観資源(眺望別)
岩木山の眺め	視点場：弘前城本丸、城西大橋、追手門広場、ねぶた村前、和徳十文字、豊田陸橋、国道7号(桜並木、大鰐弘前IC付近)、仲町伝統的建造物群保存地区、宮地造坂、ロマンピアそうま
山なみの眺め	市街地からの白神山地、八甲田山、久渡寺山
市街地の眺め	視点場：岩木山、アップルロード、墓地公園、久渡寺
五重塔の眺め	視点場：蓬莱橋、鍛冶町、土淵川吉野町緑地、辻坂上、建物の隙間からの眺め

3. 弘前市の景観特性と課題

(1)景観の全体像

弘前公園を中心とした市街地では、藩政時代の町割の上に寺社や歴史的建造物などが残り、これらを拠点に、さくらまつりや宵宮、ねぷたまつり、お山参詣などの伝統的行事が繰り広げられるなど、歴史の奥深さを感じることができます。

さらに市街地には、明治・大正時代の洋館や昭和の近代建築など、当時としては斬新な建物が点在し、これらが新旧・和洋の異なる魅力を醸し出し、弘前市民の「進取の気質」を示す街並みをつくっています。

このような歴史の奥深さを感じることができる市街地に対し、その周辺は、水田や日本一の生産量を誇るりんご園、岩木山に代表される豊かな自然が広がり、それぞれが良好に調和しています。



山地・田園・市街地が近接する弘前

(2)山地の景観

弘前市は、津軽平野の南部に位置し、東に八甲田連峰、南に白神山地、西に岩木山と、三方を山々に囲まれており、市街地からもこれらの山並みを眺めることができます。

なかでも岩木山は、市内の至るところから眺望できる、弘前市のシンボルとなっている景観で、市街地や田園の様々な景観の背景にもなっています。

また、津軽地方各地の人々が旧暦8月1日に五穀豊穰・家内安全を祈願して、山麓の岩木山神社を拠点に頂上を目指す「お山参詣」が行われるなど、古くから信仰の対象になっています。

岩木山のほかにも、市街地や田園を取り巻く山並みは、四季折々の美しさを私たちにもたらしています。

この魅力ある山地景観を市民が憩う場として将来へ引き継いでいくため、自然に恵まれた景観を保全する必要があります。

しかし、開発などにより市街地に近いところから次第に森林や里山が失われつつあるなど、山地景観は変化しています。また、電線や電柱、鉄塔などの工作物により、景観が阻害されている場所も見受けられます。



自然豊かな山地景観

(3) 田園の景観

山々に囲まれ盆地状になっている津軽平野は、中央を流れる岩木川の恵みを受け、県内屈指の稲作地帯となっており、春は岩木山を映し出す田植え前の水田、夏には一面の鮮やかな緑、秋には黄金色に輝く稲穂など、四季折々に美しい景観を見せています。

丘陵地では、日本一の生産量を誇るりんご園が広がっており、春には一面の白い花を、秋にはたわわに実った赤い実を見ることができます。

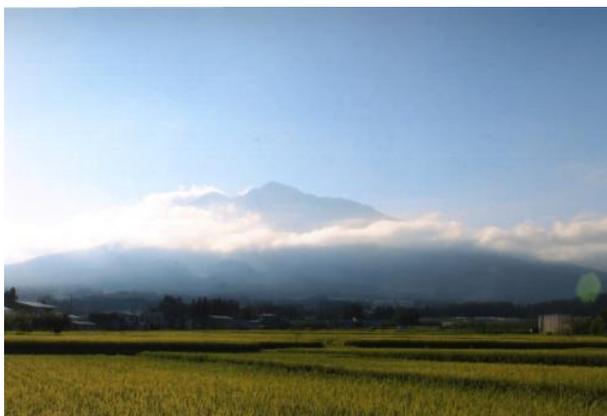
このほか、ぶどうや西洋なしなどの果樹、トマトやスイートコーンなどの野菜など、地域の特性を生かした多様な農業が行われています。なかでも、近年「嶽きみ」と呼ばれブランド化が進んでいるスイートコーンの収穫期には、岩木山周辺の幹線道路に数多くの直売所ができ、市民や観光客でにぎわいます。

田園は、農作業をする人々とともに、生き生きとした景観をつくり出しています。また、茅葺屋根の民家や土壁の蔵がある農村集落も、田園の景観を特徴づけています。

しかし、近年では、管理されていない耕作放棄地が増えるなどの課題があります。さらに、幹線道路沿いの野立看板や鉄塔などの工作物により、田園の景観が影響を受けています。



蔵のある農村集落（小沢）



水田と岩木山

(4)市街地の景観

弘前公園を中心に、城下町ならではの歴史的な建造物や街並みが残っています。

この藩政時代を感じさせる街並みに土手町や駅前などの中心商店街が近接しており、土手町商店街などには、文化財などに指定されている風情を感じさせる店舗があります。

また、昭和40年代以降に土地区画整理事業などによる宅地造成により市街地が拡大していきました。早稲田や安原などの地区では、用途や壁面の位置などについて地区計画による制限が定められ、閑静な住宅地景観を形成しています。

市街地北部の北和徳工業団地には電気機械器具製造業などの工場が立地し、東部のオフィス・アルカディアでは健康医療分野の施設等が集積しています。

近年、都市化や建物の老朽化により、城下町ならではの建造物や街並みなど歴史的な景観が失われつつあります。また、一部の屋外広告物や電線・電柱などが、歴史的な景観を阻害しています。

中心商店街においては、空きビル・空き店舗の増加など、にぎわいのある景観の再生に向け課題となっています。また、郊外の商店街などでは、派手な色彩の屋外広告物や建築物が目立ってきています。



弘前公園周辺の街並み(亀甲町)



土手町にある趣のある建物(旧一戸時計店)



郊外の閑静な住宅地(安原地区)

(5)河川の景観

白神山地・雁森岳付近を源流とする岩木川は、津軽平野の中流部で平川や浅瀬石川などの支川と合流し、十三湖を経て日本海に注ぐ県内最大流域の河川です。

岩木川は、岩木山とともに津軽の中心にあり、人々の生活を潤し、津軽の母と呼ばれてきました。

弘前市の街なかを流れる土淵川や寺沢川は、それぞれ、商店街や住宅地の中を流れて、人々の生活に潤いを与えています。

市民による河川清掃などの取り組みにより、近年、河川のごみや汚染は次第に改善されてきていますが、街なかを流れる土淵川や寺沢川などでは、ごみのポイ捨てが見られます。



岩木川（樋の口付近から）



寺沢川（茂寺橋から）



土淵川（蓬莱橋から）

(6)道路の景観

弘前市の東部を南北に縦断している国道7号の青森市方面からの玄関口、津賀野付近に、約2kmにわたって約380本の桜が植えられており、春の満開時には、桜の花に囲まれた道路景観を楽しむことができます。

また、国道7号には、田園と、その背景の岩木山など、見晴らしの良い景観を眺めることができるポイントが数多くあります。

アップルロードは、南部の丘陵地のりんご園の中を貫いて通り、春の白い花が咲く頃や秋の収穫期など、様々なりんごの姿を見ることができます。

北大通り約2kmにわたる中央分離帯に約22,000本のラベンダーが植えられている区間は、ラベンダー通りとも呼ばれ、市民に愛されています。

しかし、幹線道路沿いには、屋外広告物が目立ち、田園や岩木山などへの景観が阻害されているケースもあります。

また、国道7号沿いを中心に、近年、住宅地や商業地が新たに形成され、にぎわいを生んでいる一方で、派手な色彩の店舗や広告物により、一部雑然とした景観が見られます。



国道7号桜並木（津賀野）



北大通り（ラベンダー通り）

(7)鉄道の景観

JR奥羽本線や弘南鉄道の電車が、市街地や田園を走る景観は、地域の人々に愛されています。

また、これらの車窓からは、岩木山などの山並み、水田やりんご園などを眺めることができます。

特に、弘南鉄道大鰐線の周辺では、吉野町の煉瓦倉庫や、土淵川、そして田園風景など、様々な弘前市の表情を見ることができます。



JR奥羽本線車窓からの田園風景



弘南鉄道と土淵川

(8)歴史・文化の景観

仲町伝統的建造物群保存地区を中心に、弘前公園周辺には歴史的な建造物や街並みが残っています。禅林街や新寺町寺院街なども、藩政時代の名残を留めています。

市街地には、津軽塗、津軽こぎん刺し、津軽打刃物、天然藍染などの伝統工芸の工房も点在しており、独特な店（工房）構えや、そこで行われている作業も景観に強い影響を与えています。

また、全国から数多くの観光客が訪れるさくらまつりやねぶたまつりのほか、津軽獅子舞や宵宮といった伝統的行事が市街地を中心に催されています。

弘前市の街並みには、藩政時代の武家住宅や、明治・大正時代に建築された洋風建築、前川建築に代表される近代建築など、時代背景が異なる建築物が数多く残されています。それぞれの建物は、店舗や公共建築などの用途に活用され、現在の街並みに調和しています。

市街地・田園に限らず、至るところにある古寺社は、現在も祭事などを通じて地域の人々と密接に結びつき、歴史的な景観をつくり出しています。

しかし、老朽化などにより歴史的な建造物や街並みが失われつつあり、一部の屋外広告物や電線・電柱などが、歴史的な景観を阻害しています。



松森町津軽獅子舞
胸肩神社宵宮での奉納演舞



旧第五十九銀行本店本館



弘前八幡宮の鳥居と参道

(9)公園・緑地の景観

弘前公園は、市民の憩いの場となっている貴重な緑地空間でもあり、四季を通して数多くの観光客が訪れる名所でもある、弘前市のシンボルとなっている景観です。

藤田記念庭園や土淵川吉野町緑地などは、街の中の緑を補う空間であり、市民の身近な憩いの場になっています。



土淵川吉野町緑地

りんご公園や桜林公園などは、観光拠点でもあるほか、週末などに市民が余暇を楽しむことができる、憩いや交流の場となっています。

また、寺社の本殿や本堂などを取り巻く寺社林は、樹齢が古く、樹高などが大きいものが多いことから、寺社の景観に存在感を与えているとともに、地域の貴重な緑地空間にもなっています。

(10)公共・公益施設の景観

前川建築である弘前市庁舎や弘前市民会館、弘前市立博物館、弘前市斎場、弘前市緑の相談所は、公共施設としての本来の役割のほか、地域の景観の拠点としても役割を果たしています。

また、駅や観光館などの施設は、交流・観光の拠点であるとともに、先導的な景観を形成しています。

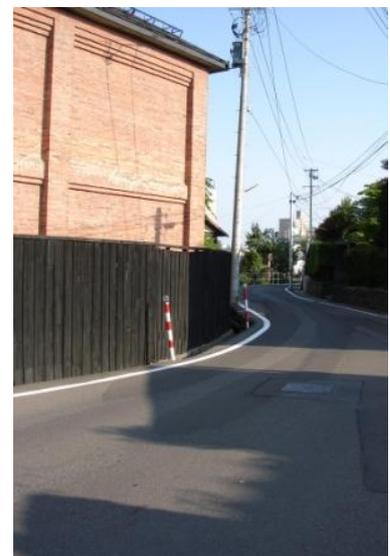


前川建築である弘前市庁舎

(11)小路・坂道の景観

岩木川と土淵川に挟まれた高台の地に弘前城が築城されたため、弘前市には坂道が多く、新町坂や新坂、新寺町の加藤坂（通称）、辻坂など、歴史的な街並みや建造物と坂道が一体となった特徴的な景観があります。

また、藩政時代の町割りが色濃く残されている弘前市には、特徴的な小路が数多く残されています。中心商店街の土手町と歓楽街の鍛冶町をつなぐかくみ小路や、弘前れんが倉庫美術館脇の小路など、特徴的な景観があります。



弘前れんが倉庫美術館脇の小路

(12) 岩木山などの眺望景観

岩木山は市内の至るところから眺めることができる弘前市を象徴する眺望景観です。特に弘前城本丸や城西大橋からは雄大な岩木山を眺めることができ、市民に愛されています。

また、五重塔も特徴的な景観のひとつです。特に蓬莱橋から望む五重塔は、中心商店街の土手町に居ながらにして、弘前市の歴史の奥深さを感じることができる眺望景観です。

岩木山や五重塔のほかにも、市街地からの山並みの眺めや、郊外の高台からの市街地の眺めなど、弘前ならではの眺望景観があります。

しかし、屋外広告物や電線、電柱、高層の建物などが、眺望景観を阻害しているケースも増えてきています。



辻坂からの五重塔



市郊外の高台からの市街地

(13)まとめ

弘前市の各景観の特性と課題は次のとおりです。

○地図：弘前市の景観特性と課題（○：特性、●：課題）

● 山地の景観

- 東に八甲田連峰、南に白神山地、西に岩木山と、三方を山に囲まれ、市内から眺望できる
- 岩木山などは市街地景観や田園景観の背景となっている
- 山地を中心に貴重な自然が残る
- 山地から田園や市街地を見渡すことができる
- 森林や里山の自然が開発等で失われつつある
- 一部の電線や電柱、鉄塔などの工作物が景観を害している

● 田園の景観

- 山々に囲まれ盆地状になっている平野部は、県内屈指の穀倉地帯で四季折々に美しい景観を見せる
- 丘陵地では、日本一の生産量を誇るりんご園が広がる
- 丘陵地の田園から、市街地を見渡すことができる
- 管理がなされていない耕作放棄地が増えている
- 一部の電線や電柱、鉄塔などの工作物が景観を害している

● 市街地の景観

- 弘前公園を中心に、歴史的な街並みが残る
- 土手町や駅前を中心に、商店街を形成している
- 区画整理が行われた住宅地などでは、地区計画などにより、閑静な住宅地景観が形成されている
- 市街地北部には、電気機械器具製造業などの工場群の景観がある
- 派手な色彩の屋外広告物や建物が市街地の景観を害している
- 中心市街地では、空きビル・空き店舗が増加している

● 小路・坂道の景観

- 歴史的な街並みや建造物と一体となった特徴的な坂道の景観がある
- 藩政時代の町割りが色濃く残る市街地には、かくみ小路など特徴的な小路がある

■ 公共・公益施設の景観

- 市役所など前川建築である公共施設は、地域の景観の拠点となっている
- 駅や観光館などの施設は、交流・観光の拠点であるとともに、先導的な景観を形成している

● 岩木山などの眺望景観

- 岩木山は市内いたるところから眺めることができる
- なかでも、弘前城本丸や城西大橋からは雄大な岩木山を眺めることができる
- 五重塔は、弘前の歴史を感じさせる眺望景観となっている
- 一部の屋外広告物や電線・電柱、建物が、眺望景観を害している

● 歴史・文化の景観

- 仲町地区の伝統的建造物群を中心に弘前公園周辺には歴史的街並みがある
- 禅林街や新寺町寺院街など、歴史的な街並みが残る
- 各所にある寺社は、歴史的な景観をつくり出している
- 藩政時代の武家住宅や、明治・大正時代に建築された洋風建築、前川建築に代表される近代建築など、異なる要素が調和している
- 祭りや手工芸など、人々の営みも景観に風情を与えている
- 都市化や建物の老朽化により、城下町らしい建造物や街並みが失われている
- 一部の屋外広告物、建物、電線・電柱等が景観を害している

● 河川の景観

- 岩木川、平川などが、市内を貫いて流れており、潤いのある景観を見ることができる
- 土淵川や寺沢川など街なかを流れる川は、市民にうるおいを与えている
- ゴミが景観を害している

● 鉄道の景観

- JR 奥羽本線や弘南鉄道が、市街地や田園を走る景観は、地域の人々に親しまれている
- 車窓からは田園景観や岩木山などの山並みの景観を楽しむことができる

● 公園・緑地の景観

- 弘前公園は、市民の憩いの場であるとともに、観光拠点でもある、弘前市のシンボルとなっている場所である
- 緑地・公園は、貴重な緑地空間として、市民が余暇を楽しむことができる場として、役割を果たしている
- 寺社林は、地域の貴重な緑地空間となっている

● 道路の景観

- アップルロードや桜並木、ラベンダー通りなどは、特徴的な道路景観を形成している
- 一部沿道型商業地では、人が多くにぎわいある景観がある
- 派手な色彩の店舗や広告物により道路景観は一部雑然としている

